

理事長就任のご挨拶

(財)日本塗料検査協会 理事長
京都大学大学院工学研究科 教授

宮川 豊章

今や50年の歴史を刻もうとしている日本塗料検査協会の理事長の重責を今回お引き受けすることになりました。理事長経験もお持ちである辻副理事長のご協力のもとに、日本塗料検査協会の発展に微力ながら取り組みたいと思っております。関係各位のご協力を切にお願い申し上げます。

ご存知のように、日本塗料検査協会は平成15年3月10日付で経済産業大臣より工業標準化法に基づく「JISマーク表示指定認定機関」の指定を受けており、認定を行う指定区分は土木および建築、化学とされています。私はその土木に由来するものであり、日本塗料検査協会の理事長として、構成員の数は少ないかもしれませんが、お引き受けするに当たって、異質ではないと安堵した次第です。

塗料の検査には種々の項目があり、その結果は塗料の性能を表す指標となります。検査があってはじめて性能が明確となり、対象とする塗料の性格が明らかになり、更なる具体的な発展もあると言って良いでしょう。したがって、検査なくしては塗料を語ることはできず、検査があってはじめて塗料と呼ぶに価するものとなるのです。性能規定の時代にあってはなおさらのことでしょう。

塗料は土木構造物にとって新設時、供用時を問わず欠かせぬものです。土木構造物は、第二次世界大戦後を典型として、活発な建設の時代がありました。まだ必要な構造物も多いのですが、これらの既設構造物は現在補修・補強・アップグレードの時代となってきています。新設ばかりではなく、既設においても塗料の役割はきわめて大きいことが知られ

ています。塗料の出番は今後ますます増えるものと思われま

す。しかし、土木技術者の中には、塗料を単なる化粧と勘違いしている人も多

いように思います。先日もとある研究会で講演したところ、日本塗料検査協会をご存知ない方があまりに多いことに驚きました。材料学の講義でも、塗料まで教える先生はまれでしょう。私の専門とするコンクリート構造物はま

だしも鋼構造物では塗料は構造物に必須であり、きわめて塗料とは近い立場にあるにもかかわらず、なのです。塗料そのものは勿論、日本塗料検査協会が周知そして認知されるよう努力すべきであると決意を新たに

した次第です。土木構造物における塗料の重要性については明らかです。それでは、日本塗料検査協会において、土木構造物における塗料の役目を果たすものは何なのでしょう

